



2023年12月 4日  
第71号

# JR東労組 Yokohama

## JR東労組横浜地本

発行人 助川一実  
編集 情宣担当  
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

### 横地申 東海道線大船駅構内 列車と電化柱が衝突した 第2号 事故に関する緊急申し入れ 第2回団体交渉を行う！その②

組合	会社
2項では、お客さま救済の課題を明らかにすることを求めているが、会社がいろいろなチャンネルを通じて社員や現場から意見を聞いていると思うので、改善点を出してもらい議論したい。	まずは降車誘導を開始するまでに時間を要したこと。13本の機外停車があり、順次お客さま救済をしていったが、要員やハシゴなど、1列車ずつの対応となったため時間を要した認識だ。また、公道にご案内した後に駅まで誘導・案内がなかったこともある。まだまだ今後のためにやっつけられる点はあると認識している。
降車誘導に時間を要した理由は何か。	複数の列車で機外停車が発生していた。限られた要員と設備で、停電区間にいた東海道線の列車を最優先にしながら救済を行ってきた。架線電源があった横須賀線や根岸線の列車は優先順位が低かったため、時間を要したと認識している。



#### 【④桃＝指揮命令の課題】

組合	会社
当日設置された対策本部は、どの機関に設置され、降車誘導の順位決めを行う対策本部はどこか。	どこと決まっていなかったが本社が本社対策本部、東京総合指令室が輸送対策本部、支社が支社対策本部、現地は現地対策本部が立ち上がり、それぞれ連携して対応してきたところである。
4つの対策本部が示された。役割分担の詳細はあるか。	事故復旧のしおりに記載がある。「事故等の規模を勘案し、対策本部双方で連携を密に行い、異なる経路で対応することもある」とあり、曜日や時間帯、線区、支社社員の派遣状況などを鑑みながら、対策本部を設置し、連携して対応してきた。
対策本部間の情報共有の手段は何か。	業務用携帯電話、メール、Teams等を使ってきた。
輸送、降車誘導、復旧など、さまざまな方針が出てくる。方針を統括するのは本社対策本部なのか。	支社対策本部が中心になっている。状況や役割に応じて行っている。

#### 【①赤＝情報に関する課題】

組合	会社
「支障物と衝撃」という第1報では現状が伝わりにくい。仮に「電化柱と衝突」となれば、現場の乗務員の認識が違ったものとなる。正確に情報を伝えるべきだ。	「電化柱と衝撃」という情報はなかなか発信できなかったと聞いている。支障物と衝撃というのは間違いがないこと。大きな事象であり、なかなかピンとくるものではない。本当に電化柱とぶつかったのか、という確認に時間を要した。「支障物と衝撃」という情報を流し続けたということも事実。第2報や第3報で言葉を置き換えていく必要があったのでは、という反省点を聞いている。
第1報が電化柱倒壊であれば、乗務員の認識が変わり、機外停車せずに済んだ列車もあったのではないかと考えている。会社側はそのような振り返りはしているのか。	指令ユニットでは、勉強会を通じて情報提供の大切さを伝えていくとしている。また、指令長についても指導を行っている。
全容を掴むことの重要性がある。列車無線も基本は1回線。どのように全列車の位置や乗車人数を把握していくのかは課題だろう。何らかの対策はあるか。	業務用携帯電話を活用するなど、ツールは限られるが最大限活用して対応することになる。クラウド指令のアクセス集中については改善（データベースの増強）していると聞いている。
第1報以降、状況が変わらなくとも一斉に都度情報を飛ばす。あとは個々のゾーンのやり取りで良いと考える。大きな事象の情報提供は全区間ですべき。	状況を見ながらとなるが、指令には伝えていく。防護無線鳴動時は、一斉で取るように指令で指導されてきた。現在はどのようにやっているか分からない部分もあるが、状況によって一斉に取ったり、ゾーン別に取ったりすることもあるだろう。
根岸線は「大船の不正落下で防護無線発報」「ドアコック扱いで防護無線発報」で抑止とだけ伝えられ、全く電化柱倒壊について情報が無かった。お客さまからネットを見せられて、初めて知ったという乗務員もいた。情報の大切さについて検討願いたい。	
降車誘導の中で、お客さまによっては「車内に残っていた方が良い」と申し出た方もいた。乗務員も説得が大変であったと聞いている。駅側でタクシーやバスが手配できているという情報が乗務員に来ていれば、もう少し説得力のある働きかけができたと言われている。	東海道線などはあまりに輸送力が大きいため、バスを1台手配したところで、どうにもならないのが実情。(代替輸送は)ほぼ無いと認識してもらった方が良い。待っていただいても、相当な時間となるのが実情であった。納得いただけない方について、警察の協力も借りて対応してもらった場面もあった。



**正しい判断には、正確な情報が必要不可欠！  
「安全第一」で考えられる職場風土をつくり上げよう！ その③につづく**